

中学生の「税についての作文」

将来を担う中学生の皆さんが、身近に感じた税に関する事、学校で学んだ税に関する事などを題材とした作文を書くことで、税について関心を持ち、正しい理解を深めていただくという趣旨で国税庁と全国納税貯蓄組合連合会が毎年実施しているものです。本年度は全国 6,489 校から 435,572 編の作文が寄せられました。この中から、「(一社)横浜南青色申告会長賞」を受賞された市内中学生の作文を紹介します。

「国を支える関税」

(一社)横浜南青色申告会長賞令和 6 年度受賞

横浜市立南中学校 齊藤 葉さん

中学 2 年生の横浜遠足で、父が勤めているということもあり横浜税関を訪れた。そこで、税関では「税の徴収」と「関所としての手続き」を行っていることを学んだ。その中で、主に「関税」という税が納められていることを知った。しかし、あまり理解を深めることができていなかったため、この機会に「関税」とは何か、なぜ払う必要があるのかを調べていきたい。

関税とは、輸入品に課される税のことで、輸入をする国の税関に、主に業者らが納めている。全ての輸入品は税率が決まっているが、主に鉄鉱石や機械類は「無税品」に相当し、関税がかからない。「有税品」でも、一定の条件に適合する場合免税や減税をされる。関税額は、「物品の種類」、「輸入元の国・地域」、「用途」の 3 つで決められている。

では、どのような目的で関税は納められているのか。理由の 1 つとしては、他の税と同様、収入を確保し国の財政を安定させることがあげられる。もう 1 つは、国の産業を衰退から守る、という点である。例えば、衣類や乳製品など、海外で作られた物のほうが圧倒的に安い場合、国内産の物は売れにくくなってしまう。そこで、輸入品に関税を課し、少しでも値段の差をなくせるようにしている、というわけだ。

最初は、海外から輸入された安い物に税を課すということもあり、消費者側の私からしてみると「商品がどんどん高くなって安い物が選べなくなり、税が自分たちの負担になっている」と悪いイメージが強かった。しかし、価格競争で有利になりやすい外国産の輸入品から、関税によって、自国の生産物を守ることができるようになった。

戦後、日本の国内総生産はアメリカに次ぐ第 2 位であった。しかし、中国の進出により現在は 3 位となっている。さらに、4 位のドイツも発展しており、日本との差はそれほどないため、世界の勢力は日本に負けないくらいの強さを持っているといえる。

また、食生活の多様化によって、主に大豆製品や肉類の自給率が低いことはよく耳にする。2022 年度の調査では、カロリーベースで 40 パーセントを前後しており、世界でも 53 位とあまり芳しくない。

調べたことから、日本の製品が外国産の物に埋もれてしまわないよう、輸入品に関税をかけていることが分かった。それに、機械類のような世界にも対抗できる生産力を持っている物なら、輸入品に税をかける必要がない、ということも知った。これらのことをふまえて、私は国産の物をできる限り取り入れていくべきだと感じた。例えば買い物のときに、「地産地消」と書いてある食材を手にとる事も一つだ。外国産のものを買わない、ということは難しいかもしれないが、自動車や米など、日本だからこそ魅力を感じるものが失われないよう、少しずつ行動していきたい。